

第8回車座トーク（12月15日 西ノ島町）でいただいたご意見に対する県の対応

テーマ「これからの隠岐を支える人づくり～人や地域間の交流、産業振興～」

1. 来年度に新たに実施または拡充するもの

いただいたご意見	対応状況
例えば、新しい人が畜産に入り1人が40頭ぐらいの牛を飼って、10人で一つの山での放牧を助け合いながら管理するようなシステムができるといい。	知夫村では、肉用牛の担い手の確保のため、体験・研修から就農までの仕組みづくりが進められており、この中で、ご提案の放牧方式の検討も可能です。 また、県では、来年度から、新たに、放牧場を有効活用するための仕組みづくりの支援も行っています。

2. 実施に向けて検討しているもの

いただいたご意見	対応状況
※ なし	

3. 既に実施しているもの

いただいたご意見	対応状況
隠岐では食材は活かされていると思うが、料理方法がワンパターンでもったいない。これからバイ貝などの料理方法も発信していこうと思う。	隠岐の島町では、地元で獲れる貝類を提供する飲食店を登録するとともに、各店が色々な料理にして観光客等に提供されています。 今後、県でも、隠岐の島町の取組を他の町村に紹介するとともに、水産教室等の機会を通じ、多様な料理方法を発信してまいります。
保育士が不足していて、働きたいのにゼロ歳児を預かってもらえない。	待機児童の解消を目的に、0・1歳児の受入定員を拡充する私立保育所等への人件費支援をH29年度から実施しています。 保育所入所の希望が叶うよう、今後も市町村と連携し、受け皿の整備、保育士の確保に努めてまいります。
畜産においても人手が足りない。正常な産業として回るための人員を確保するには、やはり、Iターン、Uターンだが、今はどこでもIターンの取り合いみたいな競争の世界になってくる。 例えば、東南アジアなど外国から出稼ぎに来た人達を、新規就農事業として何かと合わせながら、そのまま定着して牛を飼って増やしていける仕組みがあればいい。	ふるさと島根定住財団において、国内に定住する資格及び意思のある外国人を対象に、農林漁業等の産業体験を行う場合の滞在費の一部助成を行っています。 例えば、畜産でも外国の方が体験を実施し定着された事例があります。 また、知夫村では、肉用牛の担い手の確保のため、体験・研修から就農までの仕組みづくりが進められています。 この中で、定住外国人の新規就業についても、取り組むことができます。 今後も引き続き対応してまいります。
Iターン者の住まいや起業しようとするときの店舗などは、自分では見つけられない。人とのつながりがないと無理。 来てください来てください、って言われて来たら、結局ほったらかし。 マッチングやアフターフォローとかもう少し協力的になってほしい。	Iターン者が地域に溶け込みやすいよう、市町村等と連携して地域住民等との交流機会の提供や地域団体による定着促進の取組を支援しています。 また、改めて市町村にきめ細かな定着支援を強く要請しました。 今後もIターンされた方の定着支援に取り組んでまいります。
本土での観光をして隠岐の観光に来る観光客もいて、隠岐と本土側との連携を密にした	隠岐観光協会と連携したフランスの旅行博への出展や、観光ナビによる本土隠岐周遊ルートを紹介な

い。	ど、地域と連携した様々な取組を実施しており、今後も引き続き取り組んでまいります。
島内生の隠岐島前高校への進学率が低くなっているのが課題。	今後も、隠岐島前高校生自身が高校の魅力を一層高めることを考えたり、島前地域の中学生と一緒に学習活動に取り組んだりする活動等を継続し、島前地域にも高校の魅力が一層浸透するよう工夫していきます。

4. 今後の取組を検討するうえで参考とさせていただきご意見

- ・隠岐島前病院に小児科の医師がないので、慣れないお母さんたちは、本当に大丈夫なんだろうかと思いつながら子どもを連れて受診に来ている。
- ・隠岐島前は、出産が島内でできないので、例えば本土に移って出産までホテルで一人暮らしをする。第1子の場合はそれができても、第2子の時は、上の子をどうするか、という問題がある。
- ・はぐくみ寮に泊まるスタッフの定着率が低く、地域おこし協力隊がそれをやっているが、この先が不安。
- ・島前神楽の後継者、担い手不足が課題。

5. 現時点では取り入れることが難しいご意見

※ なし